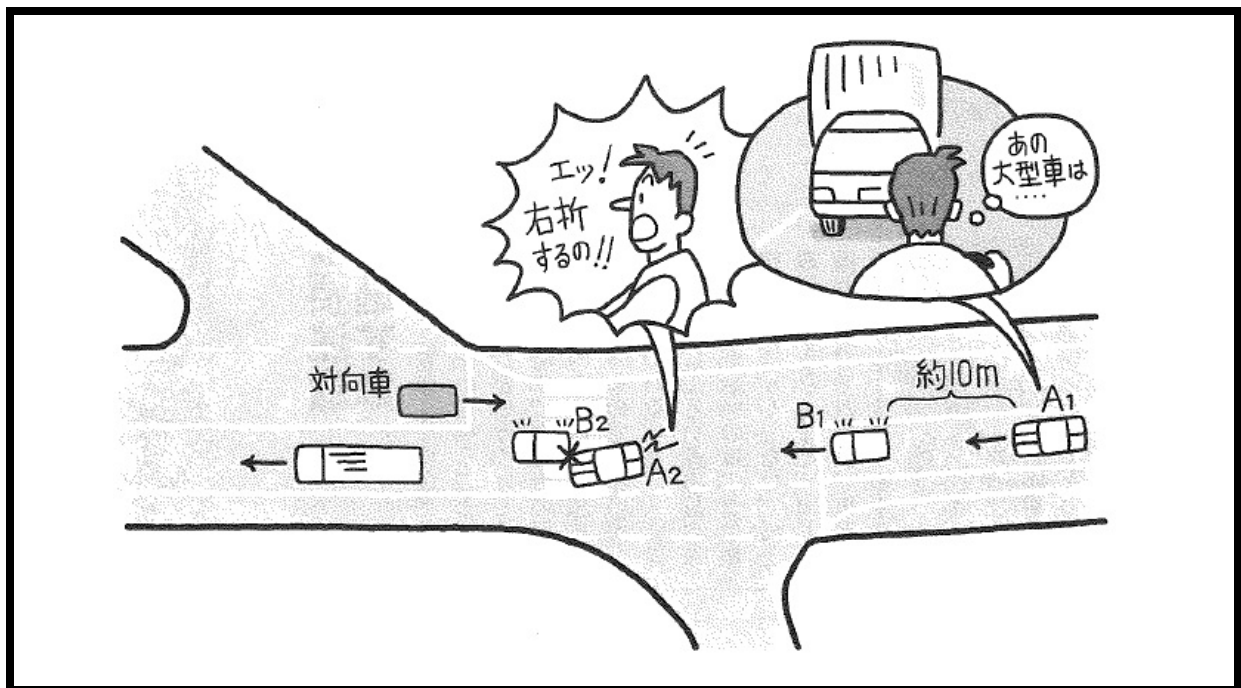


■事故の概況



事故類型：追突

発生日時：秋の朝

当事者A：普通乗用車 20歳代 男性

当事者B：軽乗用車 30歳代 女性

■ 事故の概要

Aは通勤のため、幅7mの片道一車線道路を時速約40kmで走行していました。Aの前方約10m先をB車が、その先には大型トラックが走行していました。道路の先の交差点には信号機は設置されておらず、右折専用車線もなく、そこで右折をする車両を見たことがなかったことから前方のB車よりも大型トラックの動向が気になりそちらを注視していました。

一方、Bはこの交差点で右折するため、約30m手前から方向指示器を出して減速し始めました。右折待ちのために停止しようとしたときに、Aは初めてBが右折しようとしていることに気が付き、急ブレーキをかけながら左にハンドルを切ってB車を回避しようとしたが、間に合わず衝突しました。

■ 事故から学ぶ

Aの前方不注意が直接の原因です。AはBが右折のために出していた方向指示器やブレーキランプを見落としていました。Aはこの場所で右折する車両をみたことがなかったため、注意すべきは前方のB車よりその前の大型トラックだ、とってしまったようです。通勤のため毎日この道を通っているといっても、通過しているだけです。見たことがないだけで、実際には右折する車両もいるかもしれない、という予測をすることが大切です。

AとBの車間距離は約10mでしたので、安全に停止するには不十分な車間距離でした。追突を避けるには、十分な車間距離をあげ、ブレーキのタイミングが遅れないように運転に集中することが大切です。